

資料館だより

第 34 号

平成13年(2001)
1月20日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館 〒208-0004 武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620



風俗画報
第1号表紙

タテ24.9cm
ヨコ17.7cm

三二収蔵品展 「風俗画報」

期 間 平成13年1月21日(日)～2月25日(日)

「風俗画報」は、明治22年に第1号が刊行されました。内容は、江戸時代から明治時代に至る時期の行事、風俗、慣習などを風俗画によって紹介した雑誌です。

今回展示する「風俗画報」は市立第一中学校に長く保管されていた「渡辺文庫」(元中藤村名主家旧蔵の書籍)の中にまとまって残されていたものです。

武蔵村山周辺の弥生時代概要

高 橋 学

弥生時代は日本において本格的に食料生産（水田稲作や畑作）が始まり、古墳と呼ばれる墳丘をもった墓が出現するまでの時代とされています（注1）。この時代の遺跡は武蔵村山市内では吉祥山遺跡と後ヶ谷戸遺跡の2つが見つっています。

吉祥山遺跡は武蔵村山市域で、最も著名な遺跡で、本町四丁目他に所在し、空堀川の最上流部、狭山丘陵の尾根にのる縄文時代から平安時代の複合遺跡です。吉祥山遺跡では弥生時代の竪穴住居跡が3基確認されており、そのうちの2基が発掘されています。1号住居跡と35号住居跡がその2基で、土器・石器が出土しています（図1）。竪穴住居跡は2基とも、隅丸方形をしていて、炉も見つっています。2基の住居跡から出土した土器には、壺、台付甕、高坏などがあり、弥生時代終末に位置づけられると考えられます。

岸3丁目の狭山丘陵を開析する谷内にある後ヶ谷戸遺跡では、吉祥山遺跡とほぼ同じ時期の土器が当時の川の跡から見つっていますが、住居跡などの遺構は発見されませんでした。後ヶ谷戸遺跡の南側の丘陵平坦面である大将山で試掘調査を実施しましたが、遺構・遺物は確認できませんでした。

またこの時代には方形周溝墓という四角く溝を巡らせ、その中に死者を埋葬する墓がありますが、武蔵村山市内では見つかりません。

ここで目を転じて狭山丘陵全体や空堀川やその下流である柳瀬川流域などの武蔵野台地北東縁の弥生時代の遺跡をみていきましょう（図2）。

狭山丘陵や武蔵野台地北東縁の地域において、中期中葉以前の遺物・遺構はほとんどなく、埼玉県三芳町古井戸山遺跡等でこの時期の土器が出土しているくらいで、この時期の様相はよくわかっていません。多摩丘陵ではこの時期の遺跡が多く見つっているのですが、今後狭山丘陵内において発見される可能性はあるでしょう。

中期後葉の宮の台期になるとこの地域にも集落が現れ始めます。この時期の集落には柳瀬川流域では埼玉県富士見市南^{みなみどおり}通遺跡や三芳町本村南^{ほんむらみなみ}遺跡などがあります。また黒目川流域には岡向山^{おかむかいやま}遺跡、越戸川流域には新屋敷^{あらやしき}遺跡、白子川流域には板橋区赤塚氷川神社北方遺跡などがあります。

この時期の集落は武蔵野台地の縁辺部で、柳瀬川、黒目川、白子川が荒川低地に流れこむ地点に近い台地上にあるものが多いことがわかります。この時代の人々が荒川沿いに北上してきた時には最も水田に適していると思われる広い荒川低地には水田を作りませんでした。それは当時の開発力・技術力では荒川低地は広すぎたのでしょう。その代わりにやや広い低地がある小河川の荒川低地への注ぎ口周辺に水田を作り、その近隣の台地上に集落を営んだのでしょう。

後期前半の遺跡はこの地域では赤塚氷川神社北方遺跡や埼玉県和光市午王山^{ごほうやま}遺跡などで住居跡や土器が見つっているだけであり、理由ははっきりしませんが、この一帯の人口が希薄になったと考えられます。

後期後半に入るとこの地域の集落は遺跡分布図でみてわかるように激増します。柳瀬川流域だけをみても上流域では富士見市の南通遺跡^{きたどおり}、北通遺跡^{きたどおり}、埼玉県志木市内では田子山遺跡^{たごやま}、西原大塚遺跡^{にしはらおおつか}などがあげられます。中流域ではなぜか遺跡の分布は希薄ですが、それは柳瀬川の中流域では景観が単調で水田耕作に必要な谷戸地がないからだという意見があります。上流域では埼玉県所沢市内の東^{あずま}の上遺跡^{うへ}や日向遺跡^{ひなた}などがあります。中期後半では荒川を臨む台地縁辺にしか集落が存在しなかったのに後期になると柳瀬川や黒目川の中流、上流域に集落が進出しているのがわかると思います。このことは当時の人々が人口の増加などにより、水田稲作に適した土地を求めてより上流へと川を遡^{さかのぼ}っていったことを物語っているのでしょう。

狭山丘陵周辺の後期の集落でもっとも内容が判明しているのは所沢市の東の上遺跡です。この遺跡では弥生時代後期の住居跡が40軒以上も発掘されており、方形周溝墓も3基検出されています。方形周溝墓の主体部（遺体を埋葬したところ）からは、コバルトブルー色のガラス玉16点が発見されています。

空堀川流域の詳細がわかる弥生時代の遺跡が少ないのではっきりしたことはいえませんが、弥生時代の開拓者が空堀川を遡って最後にたどり着いたのが吉祥山遺跡だったのかもしれない。（注1）古墳時代の開始については箸墓古墳に代表

される定型化した前方後円墳の出現をもって古墳時代とする説とそれに先立つ大規模な墳丘を持つ

墓の出現をもって古墳時代とする説の2つに大別できますが、本稿では前者の立場をとっています。

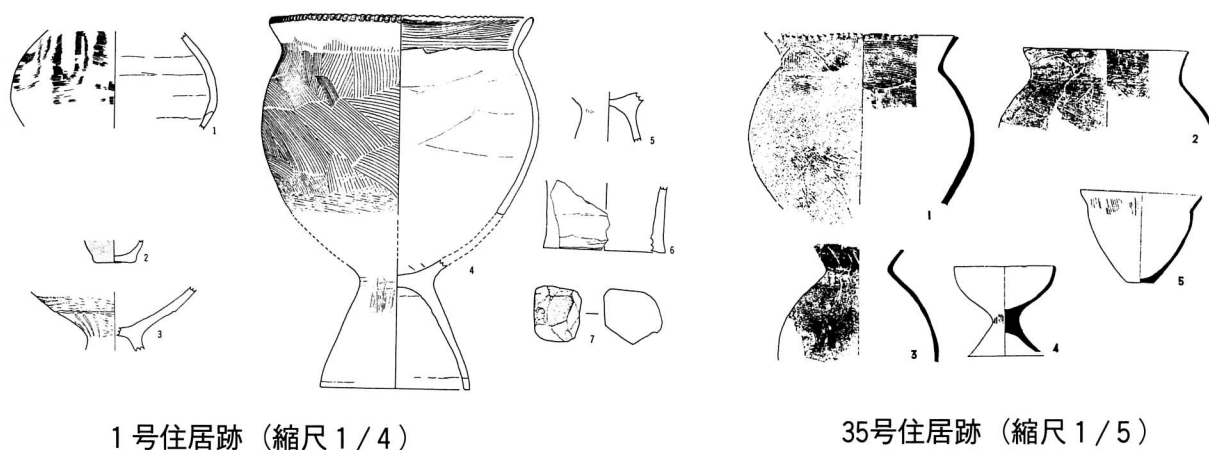
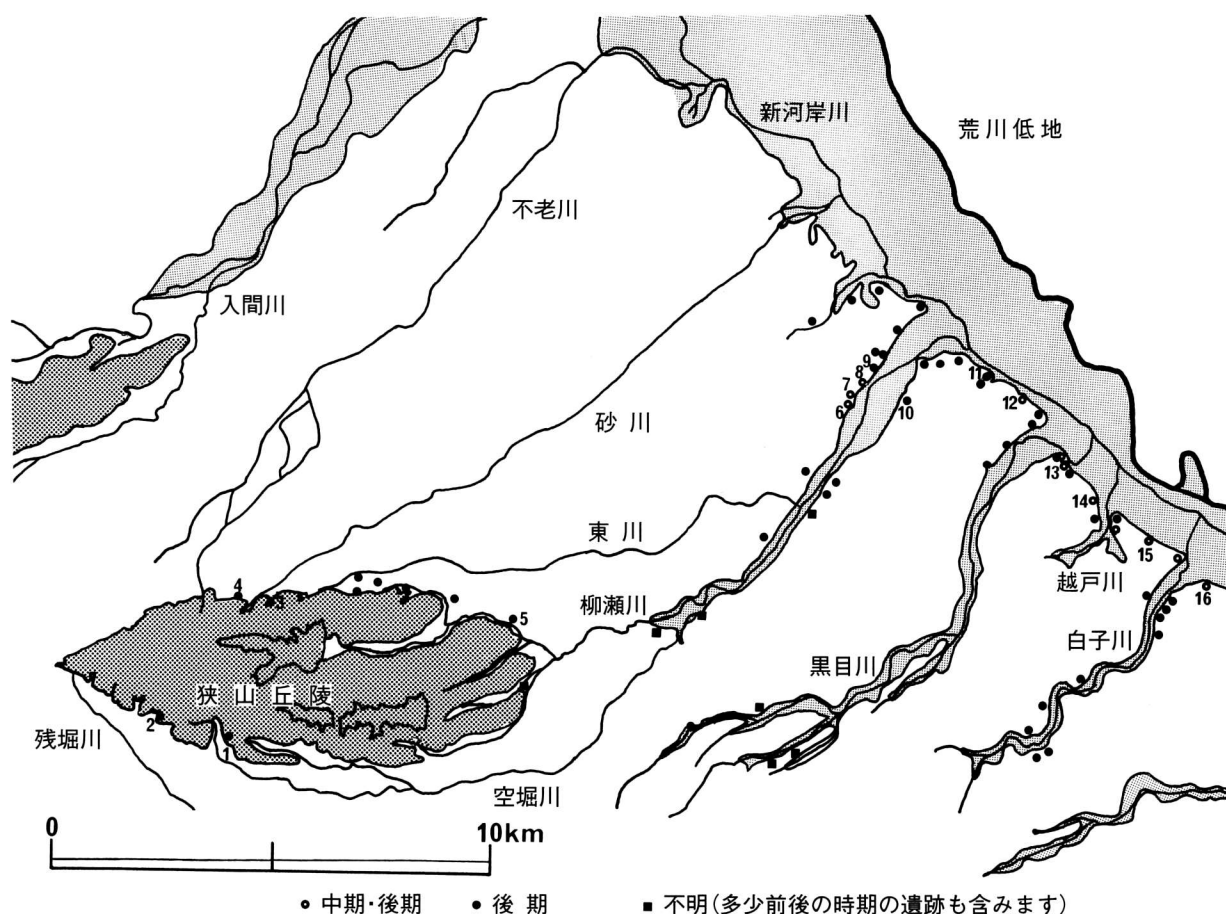


図1 吉祥山遺跡出土の弥生時代の遺物



- | | | | | |
|-----------|----------------|------------|-----------|------------|
| 1. 吉祥山遺跡 | 2. 後ヶ谷戸遺跡 | 3. 日向遺跡 | 4. 台遺跡 | 5. 東の上遺跡 |
| 6. 古井戸山遺跡 | 7. 本村南遺跡 | 8. 南通遺跡 | 9. 北通遺跡 | 10. 西原大塚遺跡 |
| 11. 田子山遺跡 | 12. ハケタ・中道遺跡 | 13. 岡・向山遺跡 | 14. 新屋敷遺跡 | |
| 15. 午王山遺跡 | 16. 赤塚氷川神社北方遺跡 | | | |

本文中で触れた遺跡には、番号をふっておきました。

図2 弥生時代遺跡分布図

寄 贈 資 料 (平成11年度)

区分 番号	寄 贈 者 (敬称略)	住 所	寄 贈 品 名	数 量
1	井 上 松 子	中原二丁目	押絵羽子板	2 点
2	荒 畑 芳 旦	本町四丁目	縄文土器ほか	20 点
3	大野木 寛 治	中央三丁目	古銭 (政和通宝)	1 点
4	荻 野 直 利	本町五丁目	古銭 (寛永通宝)	1 点
5	廣 木 浪 江	小金井市	雛 人 形	1 組
6	山 田 貞 子	中藤一丁目	まゆ集配用の袋	1 点
7	榎 本 昭	立川市	大正尋常高等小学校図面ほか	6 点
8	永 瀬 年 夫	本町四丁目	キセルほか	2 点
9	原 山 観 音 寺 組	中央三丁目	角 樽 ほ か	6 点

資料館利用状況 (平成11年度)

区分 月	開 館 日 数	総利用者数	市 内		市 外	
			人 数	割 合	人 数	割 合
4 月	24 日	924 人	383 人	41.5 %	541 人	58.5 %
5 月	23	845	357	42.2	488	57.8
6 月	25	554	231	41.7	323	58.3
7 月	25	798	305	38.2	493	61.8
8 月	25	946	470	49.7	476	50.3
9 月	20	400	174	43.5	226	56.5
10 月	22	762	418	54.9	344	45.1
11 月	22	779	395	50.7	384	49.3
12 月	21	510	291	57.1	219	42.9
1 月	21	642	368	57.3	274	42.7
2 月	23	780	458	58.7	322	41.3
3 月	25	1,099	703	64.5	387	35.5
合 計	276	9,030	4,553	50.4	4,477	49.6